



2025 冬 号

No. 132

～特集～

【くらしと河川】

・神戸市

妙法寺川水系妙法寺川の親水空間整備について

・奈良県

貯留機能の保全に向けた取り組み

・和歌山県

日高川水系西川の水害につよいまちづくりの推進

～トピックス～

・滋賀県

「滋賀けんせつみらいフェスタ2025」開催

～きんきのダム巡り～

・近畿地方整備局

天ヶ瀬ダム

～インフォメーション～

・近畿地方整備局

「さらさ編集担当者現場勉強会」を開催！！

かわの情報誌 “さらさ” 第132号

ページ

河川紹介

2

九頭竜川

近畿地方整備局 河川部 地域河川課

....

(A)

特集

『くらしと河川』

3

妙法寺川水系妙法寺川の親水空間整備について

神戸市 建設局 森林・防災部 河川課

....

(B)

5

貯留機能の保全に向けた取り組み

奈良県 県土マネジメント部 河川整備課

....

(C)

7

日高川水系西川の水害につよいまちづくりの推進

和歌山県 県土整備部 河川課

....

(D)

トピックス

9

「滋賀けんせつみらいフェスタ2025」開催

滋賀県 道路交通部 流域政策局

....

(E)

きんきのダム巡り

10

天ヶ瀬ダム(京都府宇治市)

近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所

(F)

インフォメーション

11

「さらさ編集担当者現場勉強会」を開催!!

近畿地方整備局 河川部 地域河川課



九頭竜ダム(九頭竜川)

九頭竜川（くずりゅうがわ）

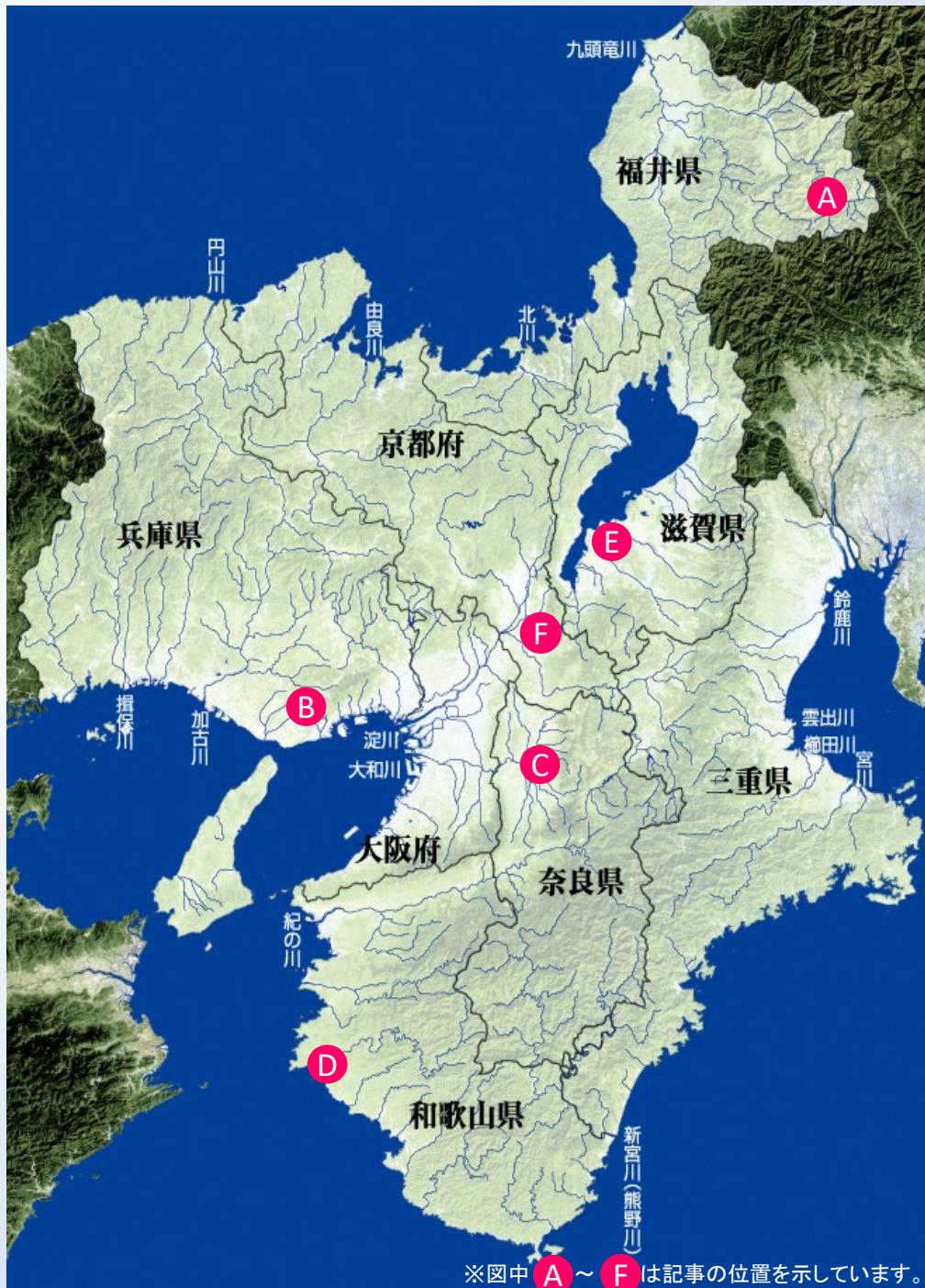
九頭竜川は、その源を福井県と岐阜県の県境にある油坂峠付近に発し、北西へ流下して福井平野を貫き、坂井市三国町付近で日本海に注ぐ、流域面積約2,930km²の一級河川です。
表紙の写真は、九頭竜川上流に位置する九頭竜ダムの九頭竜湖の冬風景を写したもので、周辺では春に桜が咲き、秋には紅葉が湖面を彩り、四季折々の自然が訪れる人々を魅了します。



上流部



下流部の夕焼け



※図中 A ~ F は記事の位置を示しています。



中流部



春の河川敷

九頭竜川上流域には、白山連峰のふもとに広がる豊かな森林や渓谷があり、四季折々の自然景観が保たれています。また、流域には古くから人々のくらしと結びついてきた集落や歴史文化が点在しています。

九頭竜川流域には、雄大な山々と清流が育む多様な自然環境と、地域に受け継がれてきた文化や風景が今も色濃く残されています。

みょうほうじがわ

みょうほうじがわ

妙法寺川水系妙法寺川の親水空間整備について

神戸市 建設局 森林・防災部 河川課

○ 妙法寺川について

神戸市須磨区を流れる妙法寺川は、六甲山系を源とした全長約7kmの二級河川です。かつては度重なる水害に悩まされてきましたが、治水対策にあわせて神戸市が市民の親しめる親水空間として整備したエリアがあります。本記事では、妙法寺川の整備の歴史と現在の利用状況についてご紹介します。



位置図



妙法寺川公園の桜並木

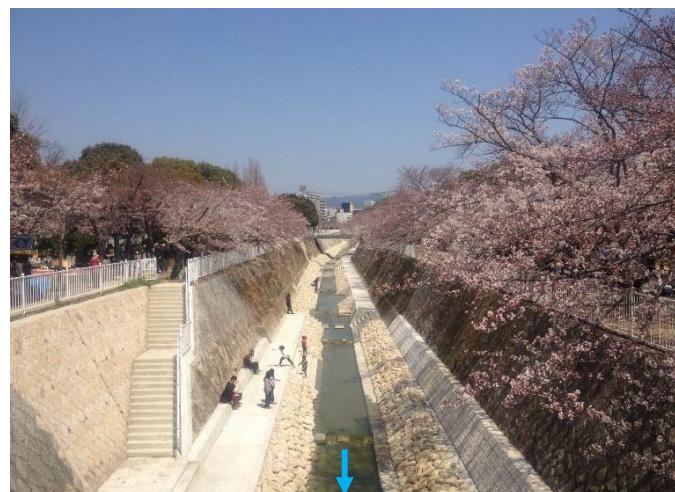
○ 整備の背景と歴史的経緯

妙法寺川は急流河川であり、昭和13年の阪神大水害では神戸市全体で甚大な被害をもたらしました。これを契機に、治水対策として河道改修や護岸整備が進められました。

平成22年には兵庫県が「妙法寺川水系河川整備計画」を策定し、神戸市では、洪水の防止・軽減、河川の適正な利用と流水機能の維持、河川環境の整備と保全を目的として、河床切下げによる低水護岸工や橋梁架け替え等を実施しています。また、市民の方々から頂いた「水生生物の生息を促す構造が望ましい」等の提案を取り入れ、自然石を河床の材料の一部に使用し、散策や憩いの場として整備を実施しました。



昭和13年阪神大水害時の妙法寺川



現在の妙法寺川（改修後の様子）

○ 親水空間整備の取り組み

妙法寺川の整備では、治水対策に加えて市民が川に親しめる空間づくりを行いました。自然石を活かした設計により、川辺での散策や憩いの場としての機能が強化されています。平成24年には水辺まで降りられる親水空間が整備され、地域住民の交流の場としても活用されています。

妙法寺川沿いの桜並木は、須磨区を代表する名所として親しまれており、毎年春には「妙法寺川さくらまつり」が開催されます。令和7年の桜まつりでは、模擬店やステージイベント、子ども広場などが設けられ、地域住民による手づくりの祭りとして多くの来場者でにぎわいました。

また、妙法寺川流域の自然や文化を学べる教材「妙法寺川物語」が作成され、地域の歴史や防災意識の向上にも寄与しています。



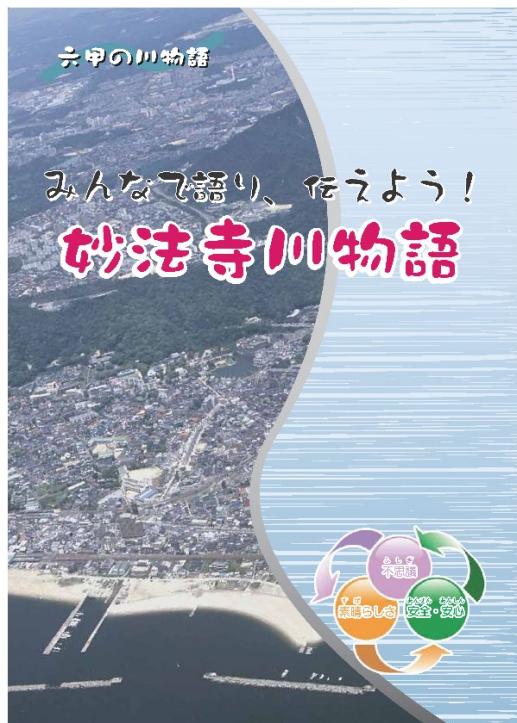
平成24年 親水空間供用開始記念式典



平成24年 親水空間供用開始時の妙法寺川



令和7年 桜まつりの様子



妙法寺川物語HP :

<https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/myouhouji.php>



○ おわりに

妙法寺川の整備は、単なる治水対策にとどまらず、地域の暮らしに寄り添う「まちづくり」の一環として進められてきました。河川の安全性を高めるだけでなく、自然とのふれあいを促す親水空間の創出は、地域住民の憩いの場としての価値を高めています。

今後も、妙法寺川流域の整備を着実に進め、災害に強く、市民に開かれた川づくりを目指してまいります。

貯留機能の保全に向けた取り組み

奈良県 県土マネジメント部 河川整備課

○ はじめに

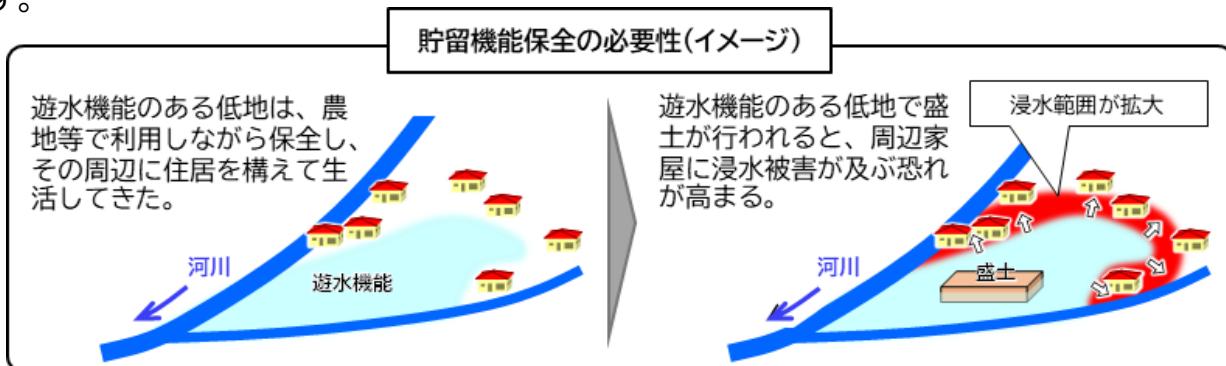
流域で頻発する浸水被害の拡大を防止するため、特定都市河川浸水被害対策法に基づく土地利用対策として貯留機能保全区域制度があります。奈良県では、大和川流域での流域治水の一環として、令和6年7月に川西町唐院(とういん)地区と田原本町西代(にしんだい)地区で全国初となる貯留機能保全区域を指定しました。また、同年12月には、大和郡山市番条(ばんじょう)地区において全国で3例目となる貯留機能保全区域を指定しました。これらの区域では、その土地が貯留機能を持っていることが広く認知され、将来にわたってその機能が保全され、田畠を利用される方々や地域の人々のくらしが守られることが期待されます。

○ 貯留機能保全区域とは

「貯留機能保全区域」は、その土地が本来持っている遊水機能を将来にわたって可能な限り保全するため、新たな盛土等の行為に対して必要な助言・勧告ができる制度です。

田畠などの土地には、雨が降ったときに雨水を一時的にためておく機能がありますが、こうした土地に盛土がされると、水の逃げ場が失われて、これまで浸水していなかった地域にまで雨水が広がり、新たな浸水被害が起こるおそれがあります。

奈良県では、過去に浸水被害があった場所や大規模な浸水が想定される場所のうち、土地所有者の同意が得られた場所を貯留機能保全区域に指定しています。貯留機能保全区域に指定されることで、盛土等による浸水範囲の拡大が抑制され、その周辺の地域を浸水被害から守ります。



○ 区域指定した地区の特徴

【川西町唐院(とういん)地区】



豪雨による浸水状況(平成29年)

川西町唐院地区では、大和川などの水位上昇により、内水氾濫が多く発生しています。

平成29年や令和5年の豪雨でも内水氾濫が発生し、河川沿いの低地が浸水しました。家屋浸水は免れたものの、周辺の低地（田畠）が開発等により盛土された場合、逃げ場を失った内水が周辺家屋等にまで拡大することが懸念されます。

そこで、遊水機能の保全に向け土地所有者の同意が得られた約3.7haの田畠を貯留機能保全区域に指定しました。

【田原本町西代(にしんだい)地区】

田原本町西代地区周辺の田畠や、隣接する天理市庵治町(おうじちょう)周辺の住宅地では、寺川の水位上昇により、内水氾濫が多く発生しています。

平成29年10月豪雨では大規模な内水氾濫が発生し、天理市の庵治団地で78軒の家屋浸水被害が発生しました。

そこで、地域の安全を守るため、土地所有者の同意が得られた約11.6haの田畠を貯留機能保全区域に指定しました。



豪雨による浸水状況(平成29年)

【大和郡山市番条(ばんじょう)地区】



豪雨による浸水状況(平成7年)

大和郡山市番条地区では、佐保川の水位上昇により周辺の水路から河川へ排水できなくなり、内水氾濫が頻発しています。

平成7年や令和5年の豪雨でも内水氾濫が発生し、河川沿いの低地が浸水しました。家屋浸水はありませんでしたが、周辺には住宅団地もあり、低地部分が開発等により盛土された場合、内水被害が団地や周辺家屋等に拡大することが懸念されます。

そこで、遊水機能を保全していくことに土地所有者の同意が得られた約3.6haの田畠を貯留機能保全区域に指定しました。

○ おわりに

区域の指定にあたっては、土地の所有者や地域住民の皆様、自治体などあらゆる関係者の協力が必要です。奈良県では、今後も地域の皆様にご協力いただきながら、貯留機能保全区域の拡大と浸水被害の軽減に取り組みます。また、河川改修や貯留施設の整備などを行うハード対策と合わせて、区域の指定や避難に必要な洪水浸水想定区域図の公表などのソフト対策を実施することで、流域の関係者が一丸となって流域治水に一層取り組んでまいります。



令和6年 記念式典の様子



貯留機能保全区域の記念碑(川西町)

日高川水系西川の水害によいまちづくりの推進

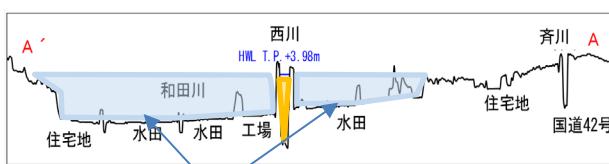
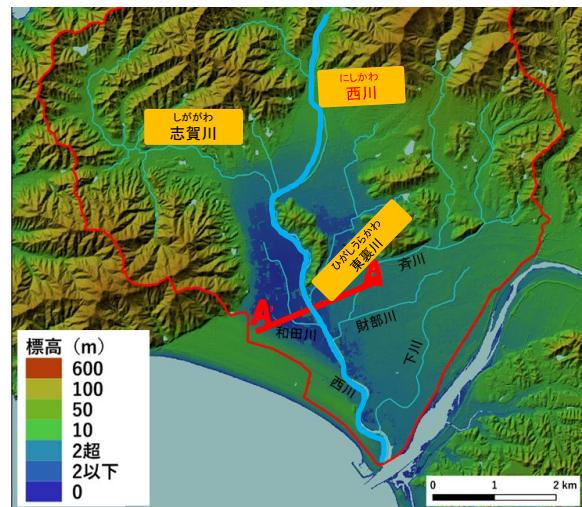
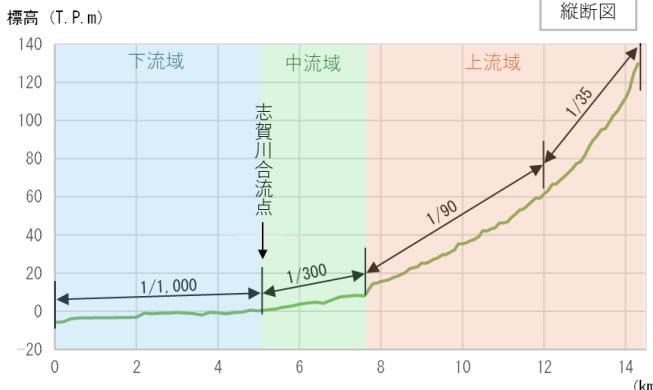
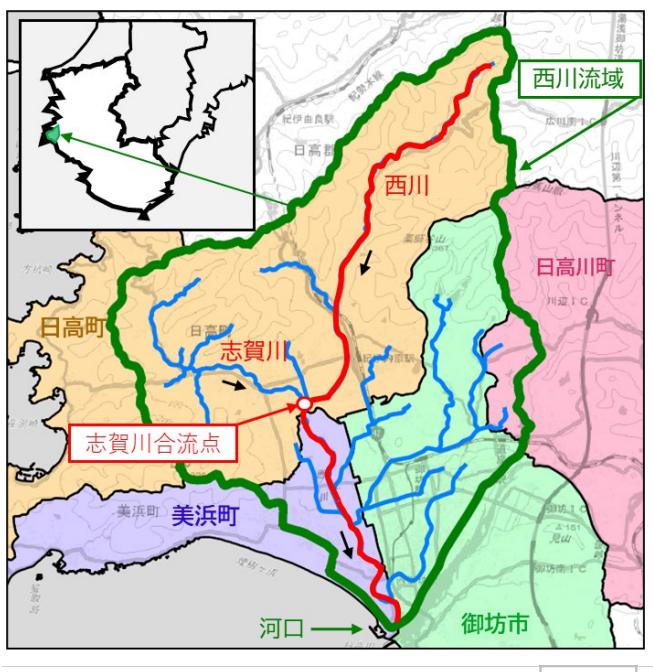
和歌山県 県土整備部 河川課

○ 二級河川日高川水系西川について

西川は日高川の河口付近で合流する一次支川であり、御坊市、美浜町、日高町、日高川町の1市3町にまたぐ流域を有する河川です。

西川の河床勾配は、上流域が急勾配、志賀川合流点より下流域は緩勾配かつ、標高も低い地形となっています。このため、満潮時と洪水が重なると中流部の低平地では雨水を排水しきれず、川沿いの市町や農地、道路の冠水が発生します。

また、西川の中流から下流では堤防が整備されていますが、川沿いの土地が低いため、水位が上がると支川の、水が西川へ流れ込みにくくなります。その結果、雨水などがたまってしまい、水が引くまでに時間がかかります。



○ 現状の課題

平成28年に河川整備計画を策定し河川改修を進めておりますが、計画区間の完成には一定の期間を要し、河川改修が完了しても、内水氾濫が残るという課題があります。

また、気候変動による豪雨災害の激甚化・頻発化が懸念されることから雨水貯留浸透施設の整備やため池の治水活用などを実施する必要があります。

これまで実施してきた河川整備計画による改修は、河川の「水を流す」能力を向上させるような考え方でしたが、これからは「水を溜める」能力をさらに付け加えることにより、違う側面からもアプローチしていくこうという考え方です。

さらに、浸水被害を軽減するためには、河川改修や貯留施設の設置による対策だけでなく、流域のみんなで「水を溜める」意識をもって協働することが大切になります。

○ 西川流域の特定都市河川への指定

気候変動により激甚化・頻発化する水害に備えるため、流域のあらゆる関係者の協働により水害対策に取り組む「流域治水」の取組を進めています。和歌山県では「流域治水」の本格的な実践に向けた取組として、特定都市河川浸水被害対策法に基づき、令和7年1月28日に日高川水系西川を特定都市河川に指定し、令和7年9月1日には西川流域水害対策計画を策定しました。

【西川流域での取組】



【防災学習】



「田んぼダム」概念図 水田の水位が上昇 (水田に雨水を貯留)

【田んぼダムの推進】



【災害対応訓練】(ポンプ稼働訓練)

○ 西川流域での「流域治水」への取組

西川流域では今後、流域水害対策計画に基づき、田んぼダムやため池の低水位管理などの流域対策を進めるとともに、災害対応訓練や地域の小学生を対象とした水防災学習の開催等を通じて、流域のあらゆる関係者が協働し、「水害につよいまちづくり」を進めています。

○ 身近にある「流域治水」への取組

日常のなかでできる、「流域治水」の取組を紹介します。小さなお心掛けで、河川へ流れ出る水のタイミングを一時的にずらし、大雨時の河川の水位上昇を抑えることができます。

雨の日はお風呂の水を流さない



家庭からの排水量を減らす

雨の日は庭にバケツを置く



雨水を一時的にためる

みどりをまもる



庭や駐車場を緑化することで保水力を高める

○ おわりに

「流域治水」という言葉を、1人でも多くの方々に知っていただき、理解や親しみをもっていただくために和歌山県においても流域治水ロゴマークを作成しました。今後も流域全体で協働し、水害につよいまちづくりを進めてまいります。



和歌山 流域治水ロゴマーク

西川流域水害対策計画の詳しい情報は[こちら](#)

和歌山県 流域水害対策 検索

「滋賀けんせつみらいフェスタ2025」開催

滋賀県 土木交通部 流域政策局

○ 滋賀けんせつみらいフェスタ2025 が開催されました！

令和7年9月20日(土)に「滋賀けんせつみらいフェスタ2025」(主催:滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会)が滋賀県希望が丘文化公園にて開催されました。

建設産業は地域のインフラ整備やメンテナンス等の担い手であると同時に、地域経済・雇用を支え、災害時においては最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う地域の守り手という重要な役割となります。本フェスタは、若年者や女性の建設産業への入職意欲に働きかけるとともに、将来の担い手となりうる、より若い世代に対しても建設産業の魅力を発信することで、現在及び将来の建設産業の担い手確保の促進に寄与することが目的です。

当日は、約4,600人の方にご来場いただき、重機の試乗、ものづくり体験など、多くの方に建設の世界を『みて』・『ふれて』・『学んで』いただくことができました。



車両試乗(ミニバックホウ)



回転式クローラキャリア



コンクリートミキサー車



車両試乗(パトロールカー)



木組み体験



車両試乗(高所作業車)



車両試乗(バックホウ)



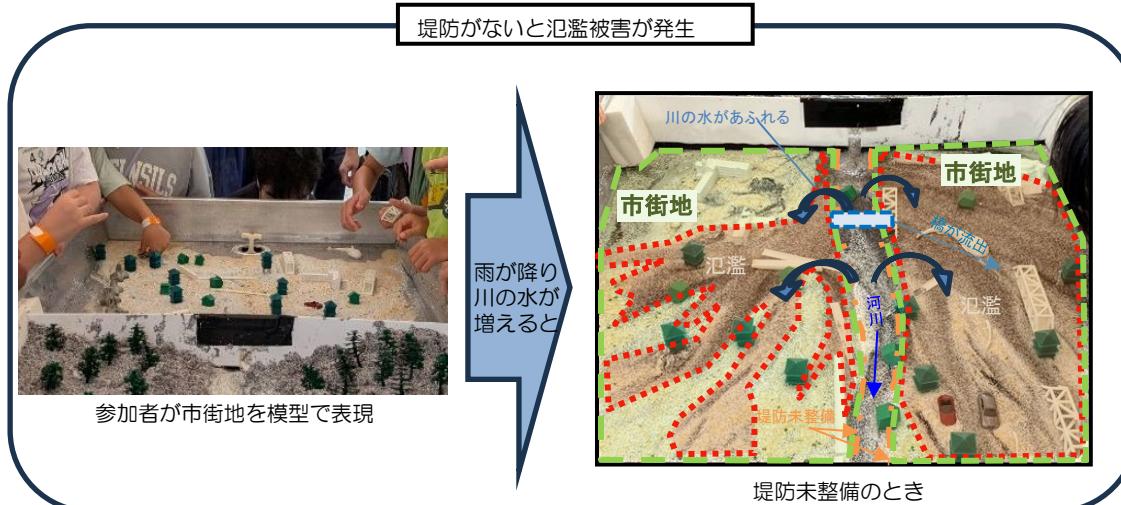
推し重機総選挙：1位バックホウ

○ emRiver (エムリバー：川の模型実験装置) ブースを出展！

滋賀県流域政策局では、[emRiver](#)を使用して、川の成り立ちや地形変化の原理を体験していただけるブースを出展しました。子どもたちや保護者の方々に大変好評で、身近なインフラ施設である堤防やダムの目的や効果を学んでいただく良い機会となりました。参加者からは「貴重な体験ができた」や「学校で勉強したとこだ」といった感想がありました。



会場の様子



きんきのダム巡り



所在地	京都府宇治市
河川名	淀川水系淀川
目的	洪水調節・発電・上水道供給
形式	ドーム型アーチ式コンクリートダム
ゲート	ダム堤体: コンジットゲート3門・クレストゲート4門 トンネル式放流設備: 主ゲート2門・小放流バルブ
堤高/堤頂長	73m/254m
総貯水容量	26,280,000m ³
着工年/竣工年	1957年/1964年 (再開発事業は2023年完成)
管理者	国土交通省 近畿地方整備局
ダム湖名	鳳凰湖

あまがせ
天ヶ瀬ダムとトンネル式放流設備(右)

天ヶ瀬ダム（京都府宇治市）

琵琶湖から流れ出る淀川（瀬田川、宇治川）の峡谷にそびえ立つのが「天ヶ瀬ダム」です。淀川水系で初めて建設された多目的ダムであり「洪水調節」「発電」「上水道供給」という3つの役割を担い、淀川流域の暮らしと安全を力強く支えています。2023年に完成した「天ヶ瀬ダム再開発事業」で、新たにトンネル式放流設備が設けられたことにより、洪水調節能力が一層強化されました。

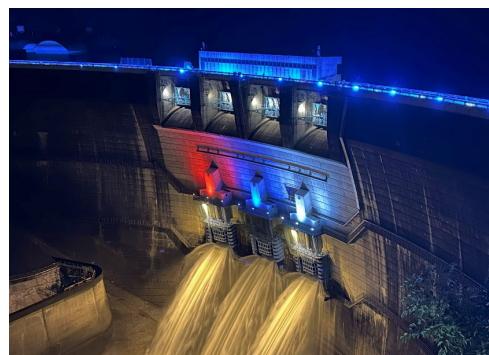
また近年では観光放流の運用も開始しました。

「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり」も進められており、完成から60年余が経過しましたが、地域を守り親しまれるダムとして、さらなる進化を遂げています。

ダムの堤頂は歩いて渡ることができ、世界遺産「平等院」をはじめとする宇治市街からもほど近い距離にありますので、観光とあわせてダムの迫力と豊かな自然に触れてみてはいかがでしょうか。



天ヶ瀬ダム再開発事業
トンネル式放流設備



夜間ライトアップ観光放流
(大阪・関西万博カラー)



ツアーアー
参加者

観光放流

ダム堤頂開放時間 8:00~16:45

年中無休 ※駐車場はございません。

SNSでも情報発信しています！

淀川ダム統合管理事務所 X (旧Twitter)



「さらさ編集担当者現場勉強会」を開催！！

令和7年11月5日（水）・11月6日（木）に、さらさの編集担当者の他、近畿管内の府県・政令市の若手技術者の技術力向上を目的に、「さらさ編集担当者現場勉強会」を開催しました。

本記事では、見学した現場について簡単に紹介させていただきます。

近畿地方整備局 地域河川課

●開催日：令和7年11月5日（水） 11月6日（木）

●視察場所：①足羽川ダム建設現場、②葉山川河川改修現場、③新西浜橈門築造現場、
④毛馬排水機場、⑤淀川ゲートウェイ

●参加機関：三重県、福井県、滋賀県、京都市、大阪府、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県、
和歌山県、近畿地方整備局 計：20名



①足羽川ダム：
足羽川ダムは、通常は水をためず自然の川の流れを保ち、洪水が発生した際にのみ水を貯め、雨が収まってから安全な量に調整しながら放流する流水型ダムです。これにより下流域の水害リスクを低減します。

②葉山川河川改修現場：
川の氾濫を防ぐため、川幅を広げ、川底を掘り下げて河川断面を約4倍に拡大する改修工事です。川の流れを止めることができないため、左右を半分ずつ区切りながら順次施工しています。

③新西浜橈門築造現場：
新西浜橈門は、大雨等で淀川の水位が高くなったときでも、橈門の内側の水を安全に流し出せるようにする設備です。水位が逆流して淀川から水が遡上する恐れがある場面では、橈門がしっかりと閉まり、まちへの浸水を防ぎます。

④毛馬排水機場：
大雨等による、高潮や洪水時において寝屋川流域の水位低下を図るため、大川の水を淀川本川に排水することを主な目的とした日本一の規模の巨大ポンプ設備を備えた施設です。現在、既存ポンプを順次更新しています。

⑤淀川ゲートウェイ：
これまで淀川大堰で分断され、船による通行ができませんでしたが、淀川ゲートウェイにより、船の通行が可能となりました。舟運の活性化や災害時等の物資運搬に寄与します。

NIPPON 防災資産 131号（秋号）で紹介した津波・高潮ステーションがNIPPON防災資産（第2回・優良認定）に認定されました！

URL→ <https://www.kkr.mlit.go.jp/news/top/press/20251217-3nipponbousaisisanntannzyou.html>



■編集後記

「さらさ」2025冬号(132号)の編集を務めさせていただきました近畿地方整備局 地域河川課 加藤・田渕です。さらさ担当として、様々な河川の情報に触れられることができるので、外出先で見覚えのある河川に出会うと街歩きの中に発見ができることもあり、毎号、楽しく勉強させていただいております。

かわの情報誌として、今後も有用な情報を届ける場になればと思っております。

編集担当:近畿地方整備局 地域河川課